

赤潮情報（４）

令和３年６月２４日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

６月２３～２４日に調査を行った結果、豊前海全域で有害プランクトンの一種シャットネラ属（*Chattonella* spp.）が確認されました。密度は前回調査よりも低下しましたが、引き続き広範囲で確認されていますので、今後も注意してください。

< 有害プランクトンの状況 >

- シャットネラ属（*Chattonella* spp.）は、豊前海では通常６～８月頃に発生し、海水１ccあたりおよそ１００細胞程度に増えると魚がへい死する恐れがあるプランクトンです。
- 本種は海水１ccあたり５００細胞以上になると、海水の変色が目視できますが、変色が確認される前の低密度の状態でも漁業被害が生じる恐れがあります。また表層の変色がなくても中層～底層に移動して増殖している場合がありますので、海水の変色が見られない場合でも注意が必要です。
- へい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

< 今後の状況 >

- 前回調査よりも減少傾向を示していますが、今後の天候次第では、本種が再び増殖する可能性もあります。研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報には十分ご注意下さい。

漁業被害、海水の変色などが見られましたら、豊前海研究所（0979-82-2151、担当：恵崎、後川）までご連絡下さい。

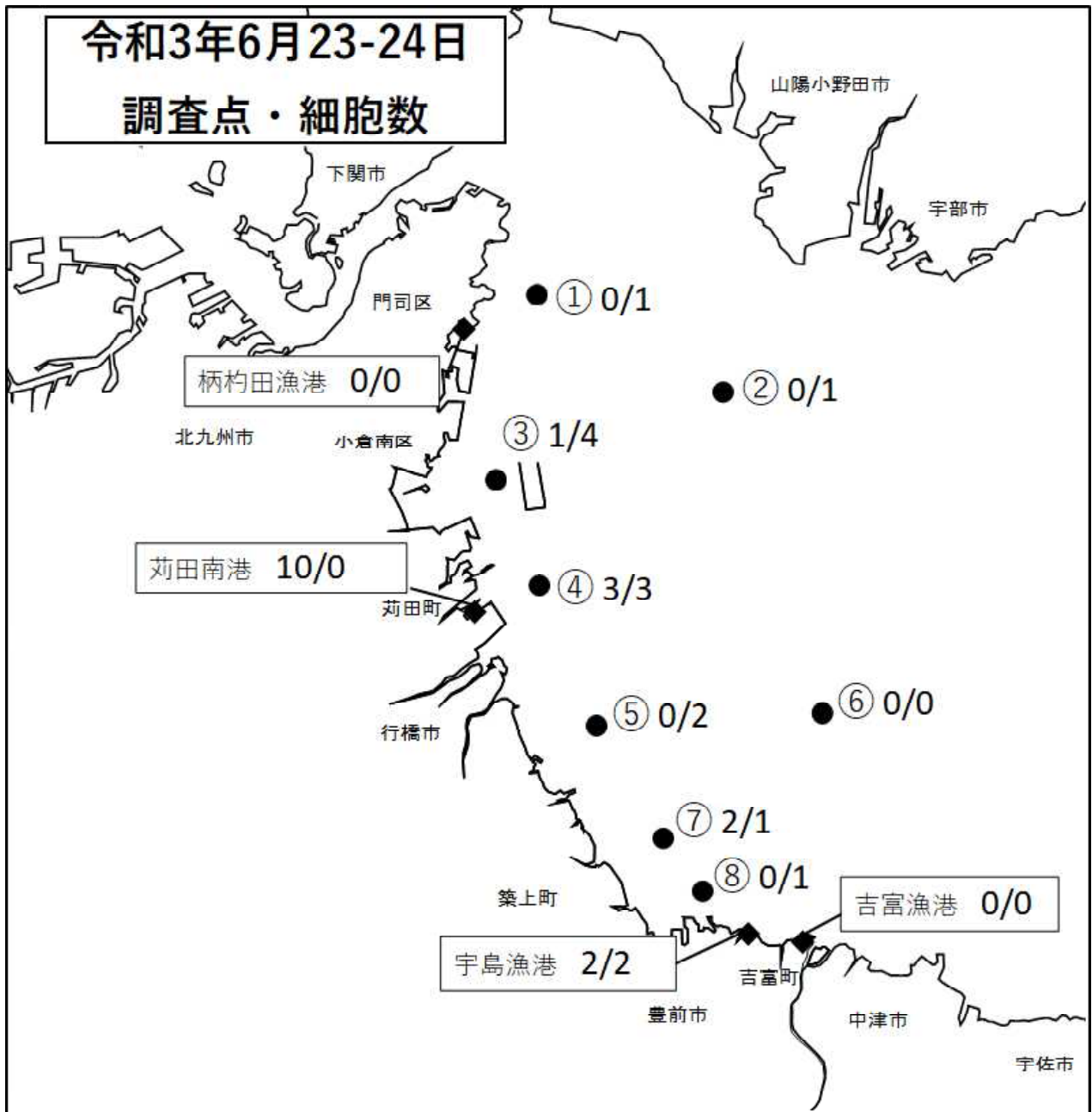


図 シャットネラ属細胞数（海水1ccあたり）

※ 魚港は0m層 / B-1m層の細胞数を示しています

※ 沖合は0m層 / 5m層の細胞数を示しています